

平 29 年度 市長懇談会「庄原いちばん談議」

(庄原市社会福祉協議会)

会 場	庄原市役所（第 1 委員会室）
日 時	平成 30 年 1 月 12 日（金） 13 : 30～14 : 30
出席者数	参加者 12 人、市 13 人
懇談テーマ	地域包括ケアシステムを進めるため、日常生活圏域の生活支援について
懇 談 内 容	
<p>■開会（進行：行政管理課長）</p> <p>■あいさつ 木山市長 庄原市社会福祉協議会 会長 山内 文雄</p> <p>■懇談テーマ「地域包括ケアシステムを進めるため、日常生活圏域の生活支援について」</p> <p>提言①医療・介護を支える体制整備 施設医療の病床減少などにより、「在宅医療・在宅介護」へ転換され、「在宅看取り」も含め、その体制整備に向け、専門職確保と関係機関の連携が必要です</p> <ul style="list-style-type: none">・本市の労働力確保と介護サービス事業者の連携強化・各日常生活圏域の「地域ケア会議」の機能強化 <p>提言②健康づくり・介護予防の強化 医療費や介護費など社会保障費の高騰を防ぐため、より効果的な健康づくりや介護予防の推進が必要です</p> <p>自治振興区と市社協が連携し「集いの場づくり」をすすめ、その実態を検証し、効果的な取り組みと啓発が必要です</p> <ul style="list-style-type: none">・小地域サロンやデイホームなど「集いの場」を活用した健康づくりの強化・自治振興区単位や自治会単位の実態把握と情報共有 <p>提言③地域包括ケアシステムの推進 地域包括ケアシステムの推進には、「見守り」「集いの場づくり」「支え合いの仕組みづくり」が重要です。</p> <ul style="list-style-type: none">・行政、自治振興区、社協や関係団体が連携し地域課題を話し合う場が必要・地域づくりの自助・互助・共助推進のための意識啓発 <p>提言④在宅生活を支える移動手段の確保 公共交通機関の利用が減少する中、生活バスや市民タクシーの運行以外の、身近な移動手段の検討が必要です</p> <ul style="list-style-type: none">・生活困窮者や障害者など、低所得者や福祉対象者の利用可能な移動手段の確保・杖歩行者や障害者、免許返納者等の移動手段の確保に向けた自動運転車両導入	

■意見交換

(参加者)

地域包括ケアシステムの構築には、重いものがある。昨年度から委託をいただいた生活支援体制整備事業、地域レベルの生活支援コーディネーターという専門職が振興区を回りながら、振興区の中に受け皿である協議体づくりを現在進めております。大体市内8割程度の振興区ではほぼ体制ができつつある。今後も重点を置きながら振興区と共に頑張っていきたいと思っています。

また、高齢者福祉に関わらず、障害者やひとり親家庭、生活困窮者や引きこもりの問題などをケアシステムの中で地域福祉課題として取り組んでいき、元気な地域づくりに我々も頑張っていきたいと思いますので、より一層の連携をよろしく申し上げます。

理事の皆さんには、市長に対して質問というよりは、それぞれの地域の実態を踏まえて、課題をしっかりと聞いていただきたいとお願いしております。

(市)

まず、本市の労働力確保と介護サービス事業者の連携強化ですが、若者の減少に伴い、医療・介護の分野に限らず、人材の確保が本市の課題であると認識しており、特に介護事業者の人材不足は、年々、深刻化していることから「介護人材確保等事業所連絡協議会」の設立に向け、昨年12月に準備会を立ち上げています。この協議会では、第一段階として、定住促進事業の情報共有のほか、介護ロボットの活用や職員の相互派遣（介護事業所間での派遣）の検討などを予定していますが、ご承知のとおり市と社会福祉協議会を事務局としていますので、引き続きご協力をお願いします。

次に、各日常生活圏域の「地域ケア会議」の機能強化ですが、新制度における「日常生活圏域ケア会議」は、高齢者の在宅生活を支える諸課題について、専門職が情報を共有し、対応を検討する会議ですが、これまでの経緯から専門職以外の方を含めて「支援組織」を設置している地域があるほか、会議の内容や開催回数に違いもあります。

今後、各地域の実情を踏まえつつ、会議の内容や開催回数を含むルールづくりに取り組みますが、引き続き、社会福祉協議会の職員にも参加いただきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

※4つのテーマを別々に話すと回答も難しいので、「地域包括ケアシステム」というジャンルの中で、地域の実態を踏まえた意見を言ってもらいます。一つ一つ答弁は求めませんので、意見として地域課題を聴いていただき、フリーな意見交換の場とさせていただきます。

(参加者)

たまたまバス停で待っていた高齢者を車に乗せたときの話で、「川北はまだいいよね、1時間のうちに店で買い物をして帰れる。そういう便が1日2回ある」。もし、比和町や高野

町だったらそういう時間帯で帰れるのだろうか？

例えば、総領診療所に行く場合、半日では済まない。総領の街まで来たけど、それから庄原に帰る便がない。

もし、車の免許を返納したら、半日かかって診療所まで来て午後から受診して帰ることができるのだろうか？個人個人に対応すると市の財政はパンクしてしまう。個人の車に乗り合わせの場合、特にトラブルとなるのが交通事故にあった場合で、好意で乗せた側が訴えられ、親切があだになり場合によっては裁判沙汰になる。全国的にはいろいろ考えられていると思うが、こうした問題が解決できるようなシステム（移動手段の確保）が考えられないだろうか。

(参加者)

よく似た問題で、80歳代の方々を連れて2ヶ月に1回買い物に行く。通院は何とかなるが、食事は毎日必要なので買い物の問題が一番大きい。自治会や振興区など地域の中で助け合いができるシステムができないかと考えているが、交通事故の問題があるため難しい。

高野地域では、お店が閉店し農協の購買がなくなったため、お店が「はしなかや」だけになり、買い物が非常に難しくなっている。振興区の中でも検討して、農協へ「何とか購買が維持できないか。最低限のものでもいいので」と掛け合ったが、経営上とても無理であるとのことでした。

また、庄原に出るにもバスが1日3便程度しかなく、往復で2,400円もかかる。買い物一つするにも1日仕事になり、移動手段も大きな課題となっている。

(参加者)

包括ケアシステムを考えていく上で、移動手段の問題も生活支援と一体だと考えている。

東城地域の実態として入院体制が全くなくなり、緊急の医療体制が取れていない。医者の高齢化もあり対応に困っている。また、振興区としてもこれ以上仕事を増やされては、人材も財源も不足しているので難しい。行政の責任で医療と介護をきちんと整えていただかないといけない。

私たちの地域では、定住対策を真剣に取り組み実績も上がってきた。3年間で72人の新たな子どもが生まれている。学校や病院が無くなれば定住先として選んでもらえない。学校再配置の計画は、是非とも撤回し考えを改めてもらいたい。

(市)

移動手段の確保については、人口が減る中で本市の広大な面積を考えると隅々まで自由な時間にバスを走らせることは難しい。このため庄原市のコンパクトシティのあり方はどうあるべきかを検討をすすめ模索をしている。交通弱者である高齢者の移動手段については、各地域の実情に応じた多様な手段により市民の移動手段の確保に努めて参りたい。

また、学校の再配置の計画については、今後、教育委員会として考えを示され、保護者や地域と議論を深めていかれる予定であるので、撤回はできない。

(参加者)

私が住んでいる総領町では、80～90歳の方が多く、最寄のバス停まで歩いて行けない高齢者が多い。何らかの援助ができないかとも考えている。難しい話ばかりするのではなく、見守りをするとか集いの場でみんなと協議するなどソフト的なことをしっかり考えてやっている。ここで暮らせて良かったと思えるまちづくりであればいいのではないかな。どうやって生きていけるかみんなで議論している。やはり現実的な方法を考えていく方が良いのではないかなと思っており、あるべき姿はこうでないといけないとは思っていません。

(参加者)

介護事業者としては、自治振興区や地域ケア会議等で地域をいかに良くしていこうかと地道に取り組んでいる。地域で対応できなくなったときに、ある意味最後の砦として施設入所を含めフォローをしていく役割があると思っている。介護タクシーなども採算が取れず撤退し、移動手段を福祉制度でしか対応できない状況にある。ヘルパーによる有償運送という方法もありますが、地域の方のニーズにきめ細かく応えていくには限界がある。できるところで頑張っているのが現実で、人材確保や採算の問題などこれ以上サービスを拡大することは難しい状況にある。

(参加者)

買い物の問題については、移動販売などのアイデアが考えられないか。組織や農協などがある程度リスクを負いながらやってもらえたらと思う。

(市)

移動販売車については、配達的时间も場所も違い、1日に何回もというわけにはいかないが、サロンなど集会所に集まられたところへ行くとか智恵の出しようであると思う。現在、国の事業も考えながら検討している。

(参加者)

サロンに参加できる人は、大なり小なり自立した生活ができる人。家に引きこもっている人が一番心配である。

(市)

根本的な考え方として、一人暮らしの面倒を誰がみるのか。まずは、家庭がどう責任を果たすかということになるでしょう。それが今、無くなっている。そうなると家庭の次に周辺の地域となり、広く言えば自治会や振興区になる。地域の協力がなければどうにもならなくなっている。

(参加者)

一人暮らしの高齢者など、地域が面倒をみていくことには賛成であるが、その仕組みづくりが重要であると考えている。地域ケア会議によって、地域がどこまでできるのかなど、連携・調整を図る一定の仕組みづくりが必要となる。

(参加者)

独居や老老介護の世帯には自己責任の部分もある。実際、民生委員が面会に行っても「ほっといてくれ」といわれる方もいる。家族ともうまくいっていないケースが多く対応が難しい。

(参加者)

今度、「みんなつながる地域交流会」があり、世帯と家族の考え方についてお話がある。「T型集落点検」という独特な手法で、みんなが繋がるために地域の中で考える仕組みをつくろうというもの。問題提起を行政や地域だけでなく、家族や個人もしないといけない。

(参加者)

自治会や自治振興区で行うデイホームや講習会についても、本当に来て欲しい人が参加してくれないというジレンマがある。来ない人は何回呼んでも参加してくれない。

(参加者)

比和のあけぼの荘のところに、コンパクトシティのはしりのような建物ができると聞いていますが。満員なのですか。最初はものすごく抵抗がありましたよね。そんなところに入る者はいないと。

(参加者)

田畑と家を守るという観点から、冬期だけそこに住むというのは必要かもしれませんし、希望者についても隣に「ひまわりの家」があるが、そこも5世帯が入って満員です。

(市)

高齢者冬期安心住宅の活用については、西城地域でモデル的に行っている。自分の家に住み続けたいと最初は抵抗があったかもしれないが、今は定員が一杯になっている。コンパクトシティは、一気に進めれば庄原市は冷たいと思われるかもしれないが、少しずつ進めていきたいと考えている。

特に単身高齢者の場合、雪が降って水や電気が止まったとき、水や灯油を持って行くなどの支援を行っている。本来、子どもにしっかり面倒を見てもらう必要があると思うが、なかなかそうもいかない。

(参加者)

行政の守備範囲を大きく超えている場合もあるが、こうした問題提起をもっとしていく場やその仕組みが必要で、「誰が」「どこまで」「何をする」かを地域住民を交えて話し合っていく必要がある。

(参加者)

私も近所の2~3軒を受け持って、雪が降るたびにほうきを持って掃きにいつている。

(参加者)

市のコンパクトシティ構想のタイムスケジュールがもう少し見えてくれば、いつ、どういう形で進んでいくのか市民側も選択肢ができる。そうすれば、「押し付けられた」「見捨てられた」という意識にならないと思う。もう少し具体化したものを示してもらいたい。

また、人口減少に対して、なぜ子どもが少ないのか。多額の教育投資が親の負担となっており、教育費の負担を軽減することで子どもの数が増えてくるのではないかと思う。例えば、光通信網を活用して在宅で塾の利用や学校の補習が受けれるなど軽減ができないかとも思う。

(参加者)

人間誰しも高齢になれば介護が必要となり、在宅生活が難しくなる。それぞれが責任を持って健康的な体づくり、生きがいに努めることが個人の責任であり、行政がそれをバックアップしていくようなシステムづくりが大切だと思う。

(参加者)

日常生活圏域を決める中で、旧庄原市は一つの日常生活圏域になっているが、せめて小学校区ぐらいの範囲で考えないと広すぎる。東城も中心部と周辺部では課題も違う。また、振興区の中でも福祉を担当する役員は会議も多く社会福祉協議会での役割もあり、それに伴う振興区の事務量も増えている。これ以上振興区に仕事を増やしてもらってもどうにもならない。以前は、社会福祉協議会として担当職員の配置もあったし、生涯学習においてもそうである。振興区の現状も汲んでいただき、圏域の見直しも必要であると考えている。

(参加者)

庄原は、圏域が7つ。庄原地域も1つ。圏域ごとにケア会議を設置してケアシステムを進める核となっている。どう考えても旧庄原地域が1つでは大きすぎる。旧庄原地域も8つの振興区毎にケア会議を設置との声もある。7つの圏域にこだわらず、柔軟に対応する必要があると思う。

■市長まとめ

広大な庄原市を見たときに、住居も点在し、抱えている課題も地域毎に違う。コンパクトシティを進めるにも、一人一人の人権の問題もあり、一度に進めていくことは難しい。

また、懇談の中で出てきたそれぞれの役割についても、一番つながりが必要となる家族の役割についてこれまでほとんど議論されていない。もう一度、家庭とは、自治会とは、地域とは何かということを議論し、意見交換をしていけば、また新しいまちの姿が見えてくるのではないかいと思う。

医療と介護は切り離すことはできない。西城市民病院の力を借りて、東城地域へ検診に出かけてもらっているが、まだまだ充実をさせていく必要もある。

庄原市の将来を見据え、市民の誰もがいつまでも安心して暮らせる地域づくりのために、いただいた貴重なご意見をもとに、今後の市政運営にしっかりと活かして参りたいと考えておりますので、今後ともご協力をお願いします。

本日はありがとうございました。